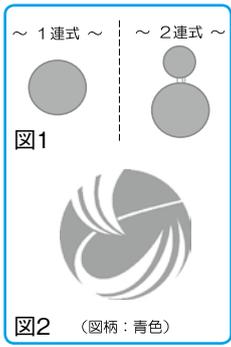


豊岡市名誉市民章のデザイン案を募集

豊岡市に顕著な功績のあった名誉市民に贈呈する名誉市民章のデザイン案を募集します。

○応募条件

- ・1連式または2連式(図1)・デザイン必須項目①「豊岡市名誉市民章」の文字②豊岡市市章の図柄(図2)③市の鳥「コウノトリ」の絵柄④カラー(グラデーション不可)



- ・一人1点
- ・オリジナル作品で、未発表・未発表のもの
- ・すでに使用されているもの、他のデザインに類似したものは応募不可
- ・入賞作品の一切の権利は、豊岡市に帰属(市は入賞作品のデザイン案を参考に、市民章を作成)
- ・応募作品は返却不可

○応募資格

市内在住、在勤、在学者

○応募方法

指定の応募用紙(秘書広報課と各支所窓口で配布。市ホームページからダウンロード可)に記入の上、秘書広報課または各支所窓口へ郵送または持参

- ・任意様式(A4白色・縦向き)の場合、表面に縦20cm・横15cmの枠取りをし、その中に①図案を、その下の枠外に②図案の趣旨を、裏面に③氏名④性別⑤生年月日⑥住所⑦電話番号⑧「職業(児童・生徒は学校名)⑨高校生以下の場合保護者氏名を記入

○賞および賞品

・最優秀賞(1点)・・・5万円分の商品券(※)

・優秀賞(2点以内)・・・1万円分の商品券(※)

・特別賞(数点)・・・副賞

○募集期限

12月25日(木)(消印有効)

○結果発表

受賞者本人に通知後、市広報紙・市ホームページで公表

《応募問合せ》秘書広報課

書係(〒668-1866 中

央町2-4) ☎23-11114

地域のつながりが深まっています!(岩中区) みんなで健康づくりを楽しむ人が増えています

健康づくり推進モデル事業

健康づくり推進モデル事業は、4区(西花園区・下陰区、桑野本区、岩中区)を指定し、健康運動教室の開催や歩キングを通して、個々の健康状態の変化や、地域のつながりについて検証を行っています。

岩中区では、毎週火曜日、区の公民館に集まり、ストレッチ体操、歩キング体操、筋力トレーニング、ラジオ体操と盛りだくさんのメニューをみんなで楽しみながら実施しています。



▲腹筋トレーニング

人と人とのつながりやコミュニティの集いの場として、家族以外の人と会話し笑顔を交わす機会となっています。

健康運動教室参加者の声

◎辻岡よし江さんの声



毎日、筋トレを続けています。以前は、膝に痛みがあったけど、

筋トレのおかげで痛みがなくなりました。教室の回を重ねるうちに、顔を合わす機会が増え、あまり話をしなかった方とも冗談が言えるようになりました。教室が和やかになった気がします。

◎森垣 学さんの声



区外の人と話をすることがなかなかできなかったけど、歩くことで区の人と同じように会話することができるようになりました。教室に参加して、一番感じるのは、太りにくいカラダになったように思います。これからも続けていきたいです。

岩中区では、健康運動教室を開始して2年が経過しました。足が軽くなったなど、カラダの変化を実感する方も多く、併せて歩くことで人々とのつながりも深まっています。



▲岩中区の皆さん

健康づくりの取組みは、健康なカラダを手に入れることができるだけでなく、地域とのつながりや絆が深まるという相乗効果ももたらしています。

あなたの地域でも、みんなで健康づくりに取り組んでみませんか?



《問合せ》健康増進課
☎24-11127

子どもの発達を知り、子どもを支える

⑧ 子どもを支える子育てQ&A

乳幼児期の発達

乳幼児期は、一生のうちで最も発達が盛んな時期で、子どもは日々変わっていきます。そんな変化が激しい時期だからこそ、その時々を発達を的確に捉え関わりましょう。今回は、子育てで、よく聞く相談や質問について考えます。

Q 子どもが自分のしたいことばかりして、言うことをききません。どうしてでしょうか？また、どうすればよいでしょうか？

A 子どもが「言うことをきける」ためには、さまざまな発達の力が必要です。どんな力が必要なのか。「言われたことを聴きとめる力」「言われたことの意味が分かる力」「人からのお願いに応える力（自分が芽生える時期は、『自分が！』の気持ちが強まり、この力は影を潜める）」などが必要です。

これらは、赤ちゃんの頃にはまだ種の状態で、発達の中で芽吹く力です。言うことを

きかない背景に、まだ力が十分に育まれていない場合があります。

もしかしたら、子どもにすると「言うことをききたくてもきけない」のかも…。

だからこそ、子どもの発達の状態に合わせて子どもに伝えたいものです。

例えば、

「言われたことを聴きとめる力」がまだ十分でないならば…伝える際に、しっかりと顔と顔を合わせて、はっきりした口調で短く伝えると良い。

「言われたことの意味が分かる力」がまだ十分でないならば…言葉で伝えるだけでなく、身振りや関係する物を見せるなどして、伝えるのも良い。



「人からのお願いに応える力」がまだ十分でないならば…お願いに応えやすいように「全部ではなく」ここからはしてね」「今すぐで

はなく）の後でいいからしてね」など完璧を求めず、基準を下げるのも良い。

Q 子どもを叱ってばかりで、うまく付き合えません。どうすればよいですか？

A 子どもとうまく付き合うのは、一種の「技」です。最初からできることではなく、少しずつ身に付けていくものです。得意な方と苦手な方がいて当然ですが、できないことはありません。「技」は学ぶことができます。



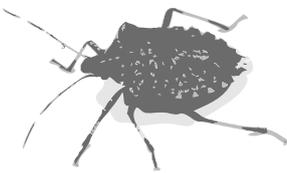
ママ友や先輩ママと話したり、一緒に活動に参加したりして「技」を学びましょう。相談の機会を利用し「技」を学ぶのもお勧めです。そして、何より子どもと一緒に遊んだり、話したりしながら、子どもから学びましょう。

◎子どもを支える合言葉
『子どもの目で見て、子どもの耳で聴き、子どもの心で感じる』。すると、子どもの支え方が浮かび上がってきます。

《問合せ》健康増進課母子保健係 ☎24-11127

こちら鳥獣害対策員です!⑤ ～来年度の獣害対策に向けて～

市では、鳥獣害対策を強化しています。このシリーズでは、市が実施している鳥獣害対策や、知っている役に立つ情報などを、市の鳥獣害対策員が紹介します。
《問合せ》農林水産課 ☎23-1127



鳥獣害対策員が暮らす自宅は、但東地域の山の中にあります。この時期、たくさん

のカメムシが家の中に入り込み、頭上を飛び交っています。あえて捕獲せずに放置していると、数日後には目に付かなくなりました。

カメムシが多い年は、大雪の言い伝えがありますが、今年の冬はどうでしょうか。

◎来年度の獣害対策への第一歩
収穫が終わり、積雪期までの間、電気柵の整備はどのようになっていますか？

来年度の獣害対策への第一歩として、この時期、重要なのは電気柵を張る限り、電気流し続けることです。

動物は、電気柵の手前で「何だ、これは？」と立ち止まり、鼻を付けて確認することで感電します。動物の肌が露出している部分、特に鼻に当たらなければ、電気柵は本来の威力を発揮しません。毛の厚い背中部分に当たっても、濡れていない限り、あまり痛くないようです。

動物は、電気が流れていない電気柵を1シーズン経験すると、「電気柵は突破できるもの」という意識を持ち、電気柵の手前で立ち止まることも、鼻を使うこともせず、すぐに柵を越えるようになります。

電気柵を張っている間は、電気を流して、動物に電気柵の怖さを教え続けましょう。電気柵は積雪期前に片付けるようにしましょう。

◎10月のシカ捕獲頭数
主に豊岡・日高・但東地域で、シカ捕獲専任班を含め、銃による捕獲を実施しました。畠と合わせて、市内で650頭を捕獲しました。